

# 企業ニュース 三菱ケミカルホールディングス

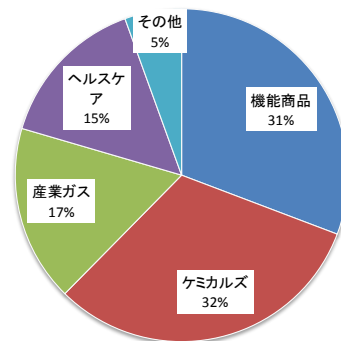
(東証1部：4188) <http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

## 総合化学最大手メーカー

◇18.3期売上高構成比

2005年、三菱化学と三菱ウェルファーマの株式移転により設立。三菱ケミカル（2017年に三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨンの合併により設立）、田辺三菱製薬（2007年に三菱ウェルファーマと田辺製薬との合併により設立）、生命科学インスティテュート、大陽日酸（2014年公開買い付けで子会社化）を事業会社として傘下を持つ総合化学国内最大手メーカー。アクリル樹脂の材料となるMMA（メタクリル酸メチル）の生産能力は世界の約40%を持つ最大手メーカー。Muse細胞を用いた再生医療製品の開発も進め、18年1月に第一適応疾患（心筋梗塞）の臨床を開始、20年度申請・21年度承認を目指している。Muse細胞は、ヒトの生体内に存在している間葉系幹細胞の中でも特に分化能の高い幹細胞。



(出所) 三菱ケミカルホールディングス  
資料よりCAM作成

## MMAスプレッド拡大などケミカルズが業績をけん引

19.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上収益が1兆9,221億円、前年同期比7%増、コア営業利益が1,882億円、同2%減（コア営業利益は、営業利益から非経常的要因から発生した損益を除いて算出している）。ケミカルズでは、MMA及び炭素製品の市況が期初想定に比べ良好に推移した。ヘルスケアでの研究開発費など販管費の期ずれもあり、期初計画を売上高で129億円下回ったが、コア営業利益は162億円上振れて着地した。

19.3期連結業績の会社計画は、売上高が4兆400億円、前期比8%増、コア営業利益が3,680億円、同3%減。原料高影響による減益インパクトを、好調なケミカルズなどで補い、期初計画から売上収益で1,100億円、コア営業利益で130億円上方修正。MMA、炭素製品のスプレッド悪化懸念は残るが、中期的には子会社の能力増強投資効果などが期待できる。足元進行中の案件としては、日本合成化学のフィルム能力増強投資（2020年3月完成予定）、大陽日酸によるPraxair社欧州事業の一部買収（12月3日完了を発表）、田辺三菱製薬の筋萎縮性側索硬化症薬「ラジカヴァ」の欧州およびカナダでの申請などが挙げられよう。

## 【株価動向・投資判断】

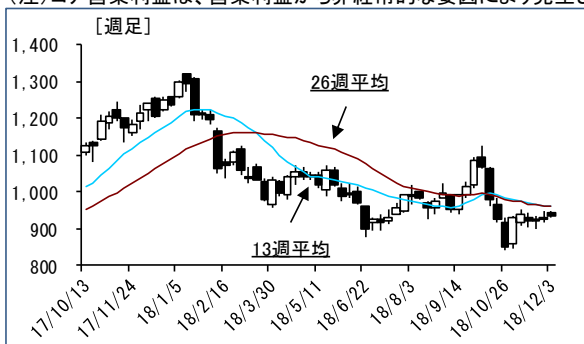
総合力を持つ化学メーカーとして評価したい。PER6倍台と株価水準にも割安感はある。市況変動の影響を受けやすい銘柄であり、原油価格の動向などは注視したい。

### <4188 三菱ケミHD 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	コア営業利益	営業利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	3,376,057 (▲5)	307,522 (2)	268,621 (0)	156,259 (204)	106.7	20.00
18.3	3,724,406 (10)	380,489 (24)	355,711 (32)	211,788 (36)	147.1	32.00
19.3 予	4,040,000 (8)	368,000 (▲3)	354,000 (0)	213,000 (1)	149.8	40.00

(注)コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出。



【主要株価指標】 (売買単位：100株)	
株価(2018/12/3)	935.0 円
年初来高値(高値日)	1,319.5 円(18/1/9)
同 安値(安値日)	842.3 円(18/10/26)
予想PER(19.3予)	6.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	984.6 円
PBR	0.95 倍
予想配当利回り	4.28 %
(1株当たり配当金40.00円)	
ROE(18.3)	17.8 %
発行済み株式数	150,629 万株